

「(仮称)佐世保市鹿町町風力発電所設置計画に係る計画段階環境配慮書」に対する意見書

令和2年6月17日

〒859-6405

住所 佐世保市世知原町開作4 2 7 - 5

氏名 ふるさと自然の会 会長 かわちのよしはる 川内野善治

連絡先(電話番号)0959-78-2865

環境の保全の見地から次のとおり意見を提出する。

意見の項目	意見の内容及びその理由
2.2.8 その他の事項	2-13 (1) 複数案の設定について 「今後の環境影響評価手続きにおいては、(中略)ゼロ・オプションの検討は非現実的であると考えられるため、対象としなかった。」 意見 鹿町ウインドファーム建設時にアセスの制度はなかったが、既にこの辺りをハチクマ・アカハラダカ・ツル類が渡っていることは日本野鳥の会長崎県支部の調査で分かっていた。もし、アセス制度が建設当時にあったなら、1,000kW×15基の規模にはならなかったと考えられる。 先に述べたように本地域は既往の調査からツル類・ハチクマ・アカハラダカの渡りのメインルート {第3. 1-15図(1)}、となっていることが分かっており、貴社が重大な環境に対する影響への回避を考えるならば事業を実施しない策を選択すべきである。
4.3.1 騒音及び超低周波音	4.3.1 騒音及び超低周波音 第4.3-2表、4-10(3)評価 意見 平成24年度 環境省請負業務「風力発電施設の騒音・低周波音に関する検討調査業務報告書」の報告書から抜粋するが、以下のような問題が挙げられている。 ①風力発電施設が建設されるのは本来静穏な地域が多く、風車騒音は可聴性の騒音として深刻な問題である。特に規則的に変動する振幅変調音 (swish 音) や純音性の成分が近隣住民のアノイアンスを高めていると考えられる。 ②風車騒音は夜間など地域の暗騒音が低い時に気になり、睡眠影響などの原因となりやすい。ひいては、それが健康に影響を及ぼす可能性がある。 ③これまでの調査・研究において、風車騒音と健康影響との因果関係を

	<p>示す科学的根拠は確認されなかった。一方、風車騒音とアノイアンス及び睡眠障害との関連は示唆され、これらが慢性的に惹起されることによるストレスから何らかの健康影響が生ずることを否定する研究論文はなかった。</p> <p>④単機出力別（風車から苦情者宅までの距離）の苦情割合も出されている。これによれば、出力 2000～2500kw で、300～600m(55%)、600～900m(45%)、900～1200m(40%)</p> <p>第 4.3-2 表によれば風力発電設置予定地から 500m 範囲に 2 戸、500～1000m に 29 戸、1000～1500m に 107 戸、1500～2000m に 78 戸。</p> <p>風車建設用地から 2 km 以内に 216 戸もの住宅が有る場所に出力を上げて更新するのは問題が大きい。評価 (4-10) で書かれているような対策をしても全ての方々に全く影響を与えないことは考えられないので、建設を控えるべきである。</p> <p>事業者は風車を建てて、自らは静音な場所で生活し収入を得ることができるが、地元住民は、騒音等の被害を受けてもそこから逃げ出すことが出来ない。これまで、各地で騒音や低周波による被害が出ているが殆どが泣き寝入りである。</p>
4.3.3 動物	<p>第 4. 3 - 6 表 (1) 重要な種の予測調査結果</p> <p>意見</p> <p>「主な生息環境が事業想定区域に存在しない・・・」主な生息環境は誤った解釈がなされている。</p> <p>本地域ではキクガシラコウモリを確認しているが、市内ではコキクガシラコウモリ・モモジロコウモリ・ユビナガコウモリを確認している。</p> <p>これらの種は洞窟や人工トンネルなどをねぐらに利用し、日没後に森林内や池沼で採餌活動する。</p> <p>コウモリは風車の衝突以外に運転中の気圧の変化による影響を受けて死亡すると言われているので、前記コウモリ 4 種については十分な調査を行い予測・評価をすべきである。</p> <p>建設予定近くには以前大小複数の炭鉱が有り、これらの鉱山跡を休息や繁殖の場として使っている可能性が有る。炭鉱跡地とその位置、コウモリの利用について調査し示すべきである。</p> <p>第 4. 3 - 6 表 (2) 重要な種の予測調査結果</p> <p>意見</p> <p>風力発電の運転に伴う影響を予測するために、十分な調査が求めら</p>

れる。十分な調査とは、渡り鳥については渡りの季節の（ツル類の南下は10-12月）春（2-4月）と秋（9-10月）の期間で複数年を必要とする。

風車の渡りへの影響をより正確に調べるには、風車の稼働時と風車の影響を受けない（停止もしくは撤去）状態で現在の風車設置場所や、その周辺で天候の変化を加味した（天候が悪いと低く飛ぶ）調査を行うべきである。このようなことを考えると風車による渡りの影響を1年で判断できるものではなく、最低4年が必要である。

本事業のアセスの最大のポイントは鳥類への様々な影響を正確に調査し予測することである。

ハチクマの渡りのコース（秋の個体数が多いが春も通過している 3-41,3-42）は長年の既往の調査で明らかになっている。

風車は団扇のようなもので、ブレードの回転範囲が壁となる。現在はハチクマの渡りのコースとほぼ直角（アカハラダカとツル類に対してはほぼ平行）に風車が設置され大きな障害となっていると思われ、2005年2月～現在までにバードストライクが起きていたと考えられる。

最大規模で更新されると全体の高さが50m高く、ローター直径が倍になるのでこれまで以上に渡りに影響を与えることは容易に予測できる。

さらに、風車が建設される場所の標高が少しずつ変化することにより、より影響を受ける幅が広がる。これまでのハチクマやアカハラダカの長年の調査から、これらの渡りのコースは他の猛禽類や小鳥類の渡りコースとも重なっている。これは、渡りに有利に働く地形や気流のためである。気象状況ごとに渡りに有利となる気流の状況、気流と風車群の関係も詳しく調べる必要がある。

宇久島の風車に衝突し体が半分になったミサゴがいる。ミサゴは宇久島で繁殖し海岸で普通に見られる。ミサゴは風車の存在を良く知っていたはずであるが、ブレードに衝突している。これはモーションスミア現象によるものと考えられるので、これについても十分に解析すべきである。

バードストライクは風車がある限り起こりうる、バードストライクを避けることが出来ても、渡りの方向を変えるなどの動きは渡りの際のエネルギーを無駄に消費するなど、これから長距離を渡る鳥（ハチクマで1万km）にとっては大きな負担となり、影響は非常に大きい。

もう一つ大きな問題は渡りの際のねぐらの位置である。渡りの観察では上昇気流の発生と共にどこからともなく湧いたように出現する個体を見ることが出来る。渡りの調査と共にねぐらの調査も非常に重要である。

ちなみに、日本野鳥の会長崎県支部では30余年ツル類と猛禽類の渡りの調査を実施しているが、冷水岳展望台でも9～10月の2ヶ月単位で継続調査している。

2016年9月・10月の調査が平均的な種と渡りの個体数だったので紹介する。「アカハラダカ 2,217・ハチクマ 2,199・ミサゴ 12・オオタカ 4・ハイタカ 1・ツミ 1・サシバ 4・ハヤブサ 6・チゴハヤブサ 8・チョウゲンボウ 2・ノスリ 2・タカ sp9」であった。

この年は大瀬崎でハチクマの渡りが10,485羽観察されている。冷水岳での調査地点では全て東側（船ノ村側）から飛来するので、この年に渡った個体の21%が通過したことになる。

日本野鳥の会長崎県支部の貴重な調査に加え、3-45 第3. 1-19 図 センシティブィティマップにも掲載されている猛禽類やツル類の移動場所に風力発電の規模を拡大し更新するのは極めて大きな問題である。

ツル類も猛禽類と同様に天候が悪いと低い高度で渡るのでより影響が大きくなる。なお、他にコサメビタキ・オオルリ・キビタキ等の夏鳥の渡りも観察されており、オジロワシの不定期の渡来もある。

ツル類については、第4.3-4表(2)の選定根拠が十分ではない。

ナベヅル：世界の推定個体数約16,000羽・IUCNレッドリスト絶滅危惧II類(VU)・日ロ渡り鳥条約・日中渡り鳥協定・ワシントン条約附属書I・種の保存法国際希少野生動植物種

マナヅル：世界の推定個体数約6,000羽・IUCNレッドリスト絶滅危惧II類(VU)・日ロ渡り鳥条約・日中渡り鳥協定・ワシントン条約附属書I・種の保存法国際希少野生動植物種

風力発電建設用地はこのような種が渡りに使う場所であることを十分に理解すべきである。

(鳥類についてその他の意見)

- ・建設予定地近くには複数の池が有り、ミサゴが池によく飛来する。
- ・ノスリは周辺に田圃が有るので冬季飛来する。
- ・渡りの季節には、様々な小鳥類も尾根を越えて渡る。
- ・建設予定地周辺でサシバの繁殖の可能性が十分に考えられる。
- ・日本で繁殖したサシバの渡りは観察が行われているが、アカハラダ

	<p>カと同じように朝鮮半島や中国大陸で繁殖したサシバの渡りも観察されていることから、これらについての調査も必須である（センシティブティマップにも掲載されている）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域の森林にはカゴシマアオゲラ・フクロウを確認している。 <p>風力発電計画地域は国内で有数の渡り鳥の通過地域である。このことはセンシティブティマップにも掲載されている通りであり、巨大風車の建設は鳥類にとっては極めて大きな影響を与えることが分かる。このような場所に風車を建設することは地球環境保全上許されない行為である。</p> <p>（両生類・は虫類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎サファリパークが営業していた際に作られたカバ池はニホンアカガエル・カスミサンショウウオの貴重な産卵地となっていることから、これらの繁殖期には水溜まりの管理を行うべきである。 ・当該地域の森林にはシロマダラ・タカチホヘビが生息する可能性がある。 <p>（哺乳類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域の森林にはスミスネズミが生息する可能性がある。
4.3.4 植物	<p>意見</p> <p>当該地域の森林にはウンゼンカンアオイと佐世保市では分布の限られたタイリンアオイが混在する地域である。両種を識別した上で確実な保全を行う。</p>
4.3.6 景観	<p>意見</p> <p>世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が2018年7月に登録された。構成資産に「黒島の集落」が含まれている。しかし、本配慮書では全く触れられていない。</p> <p>風車の更新により大型化し、今以上に見えるようになり、景観への影響は避けられない。関係部署と十分な協議を行い、しかるべき対策を取るべきである。</p>

* 付記

鹿町ウインドファームの映像がユーチューブで公開されていますが (<https://www.youtube.com/watch?v=fx7uHkItAiU>) これを見ると、野鳥の渡りに大きな影響を与えていることが予測されます。現在より規模の大きな風車に更新されると重大な影響を与えると予測されます。